

茨木市立豊川中学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|----------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 課題が残る結果であった。 |
| ② 情報の扱い方に関する事項 | 課題が残る結果であった。 |
| ③ 我が国の言語文化に関する事項 | やや課題が残る結果であった。 |
| ④ 話すこと・聞くこと | やや課題が残る結果であった。 |
| ⑤ 書くこと | 課題が残る結果であった。 |
| ⑥ 読むこと | 課題が残る結果であった。 |

(問題形式)

- | | |
|-------|----------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった。 |
| ② 短答式 | 課題が残る結果であった。 |
| ③ 記述式 | 課題が残る結果であった。 |

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問・・・4二
「漢字の行書の読みやすい書き方について理解する問題」
- ・もっとも正答率の低かった設問・・・4一
「行書の特徴を理解する問題」
- ・もっとも無解答率の高かった設問・・・1三
- ・もっとも無解答率の低かった設問など・・・1二、2一・・・

分析（正答率が全国平均と比較して高い設問・低い設問をとりあげた）

1二…論理の展開などに注意して聞く問題。全国平均と比較して、正答率が高かった。この問題は、質問文が短く、十分な思考をすることなく解答を記入している生徒もいると推測されるが、スピーチ内容が身近だったために想像しやすかったことが成果の要因だったと考えられる。日頃の授業から、学習の直後は理解し、解答できているものも、時間が経過すると解くことができなくなる場面がある。

1三…自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す問題。全国平均と比較して、無解答率が高かった。設問に加えて条件が2つ設定されており、文章で何を問われていて、何を書いたらよいのかわからなかったためだと考えられる。質問や条件が多くなると、複雑に捉えてしまい、問題を熟読する前に、できないと捉えてしまうことが多い。

家庭学習を繰り返し行って定着させたり、計画的に授業者からポイントを伝え、正確に読みながら解くことができる問題に触れることで、長い設問や複雑にみえる問題も「できる!」という自信につなげていきたい。生徒が問題と向きあい、定着につなげることができるよう取組を進める必要がある。

(領域ごと)

- | | |
|----------|----------------|
| ① 数と式 | 課題が残る結果であった。 |
| ② 図形 | 概ね良好な結果であった。 |
| ③ 関数 | やや課題が残る結果であった。 |
| ④ データの活用 | 課題が残る結果であった。 |

(問題形式)

- | | |
|-------|----------------|
| ① 選択式 | やや課題が残る結果であった。 |
| ② 短答式 | 課題が残る結果であった。 |
| ③ 記述式 | やや課題が残る結果であった。 |

(無解答率) やや課題が残る結果であった。

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問・・・5
「多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解する問題」
- ・もっとも正答率の低かった設問・・・9(2)
- ・もっとも無解答率の高かった設問・・・9(2)
「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題」
- ・もっとも無解答率の低かった設問など・・・4, 5
「一次関数の変化の割合の意味を理解する問題」

分析 (正答率が全国平均と比較して高い設問・低い設問をとりあげた)

3・・・反例の意味を理解する問題。全国平均と比較して、正答率が高かった。問題文は長く、図も複雑であり、本校生徒が苦手意識を感じる傾向のある問題である。一方で、問題形式は選択式であり、難しさは感じるものの前向きに取り組んでみようと考えた様子が推測される。

1・・・自然数を素数の積で表す問題。全国平均と比較して、正答率が低かった。この問題は素因数分解をするという基本的な設問である。無解答率が高く、「素因数分解」への理解が定着していないために問題を解くことができなかったと考えられる。また 42 が 6×7 であることにつながらないことから基礎的な情報の習得に課題があると考えられる。

普段の授業から、学習した公式の活用に課題があり、問題を解くことができない場面が多い。例えば、因数分解の問題を繰り返す演習では解くことができて、急に因数分解以外の問題が出されると解くことが難しくなる。定着に困難さが見られる中で、家庭学習においても定着につながるような学習を継続的に行っていけるように、支援していきたい。

理科

(領域ごと)

- | | |
|---------|----------------|
| ① エネルギー | やや課題が残る結果であった。 |
| ② 粒子 | やや課題が残る結果であった。 |
| ③ 生命 | 課題が残る結果であった。 |
| ④ 地球 | 概ね良好な結果であった。 |

(問題形式)

- | | |
|-------|----------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった。 |
| ② 短答式 | やや課題が残る結果であった。 |
| ③ 記述式 | 課題が残る結果であった。 |

(無解答率) 概ね良好な結果であった。

(その他)

学校の特徴的なことについて記入

- ・もっとも正答率の高かった設問…4(1)
「節足動物に関する問題」
- ・もっとも正答率の低かった設問…3(3)
「化学変化に関する知識及び技能の問題」
- ・もっとも無解答率の高かった設問…5(3)
「実験の計画を検討する問題」
- ・もっとも無解答率の低かった設問など…1(2)、2、3
(2)…「実験を計画する問題」等

分析（正答率が全国平均と比較して高い設問・低い設問をとりあげた）

6(1)…玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題。全国平均と比較して、正答率が高かった。無解答率が低く、また設問が適切な言葉を選択するものであったため、解きやすかったと考えられる。2 か所ある空欄の解答を選択する問題で、2 か所とも正答するということは、問われていることをきちんと理解して解答を選択できている結果だと考える。一方で、選択式ではなく短答式だった場合、生徒の解答状況がどうなるかを検証することも必要だと考える。空欄にあてはまる言葉を書く問いであれば正答率が減少することも考えられる。

8(1)…全国平均と比較して、正答率が低かった。アリの行列の作り方を観察し、まとめた資料を元に考察を行い、空欄に適切な言葉を入れる問題である。無解答率が高く、課題が見られた。実験の目的を理解できず、問われている内容を理解できていなかったことがその主な要因と考えられる。

図と文の両方を活用して整理できる力を育てていく必要がある。生徒たちが興味をもって取り組めるように、身近なことで理科に関係するものを授業に取り入れていく。今回課題のあった問題は授業の中でも再度扱っていくことで、理解を深めさせていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

年度ごとの増減はあるものの全体として正答率は上昇傾向にある。昨年度は前年度と比べ正答率が下回っていたが、本年度の平均正答率は、前年度を上回った。無解答率が全国平均と比較して高いことから、問題を見て諦めてしまい、解答をしない傾向が見られる。普段の授業の中でも同様の様子が見られる。学校外での学習習慣の定着にも弱課題が見られる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

年度ごとの増減はあるものの高位層は増加、低位層は減少傾向にある。本年度も同様の結果となった。また、エンパワー層も減少した。コロナ禍で制限されていた、校区で取り組む「協同的な学び」が緩和された結果、子どもたちが相互の学び合いに取り組むことができるようになり、高位層は学び直し（理解の定着）、低位層は理解の機会が確保されたからだと考えられる。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 授業研究の推進

校区の2小1中で、授業づくりの視点を共有し、互いの授業を参観するとともに、授業づくり研究集会の事前練り上げや事後協議、外部講師による講評・講演を実施している。授業研究集会は例年5回実施している。

校区で協同的な学びを実施している。生徒同士が対話することにより、思考が活性化するとともに、多様な考え方を知ること、自身の考えが深まる。しかし、感染症対策のため、座席配置やグループ活動が制限されている中、協同的な学びを行う機会が減少していたが、今年度少しずつ緩和されていることから、今後も積極的に展開していきたい。

校内では、教職員が互いの授業を参観したり、学年教職員が録画した授業を学年教職員が揃って視聴したりすることを通して、授業改善を進めている。

② 学習習慣定着のとりくみ

学習の手引き（各教科の学習および評価方法）と学習（自主勉強）ノートを配布している。後者は、提出者に学習方法の助言や努力に対するフィードバックを行っている。

朝読書、昼学習会、テスト期間の放課後学習会、長期休業中の学習会を開催し、学習の支援や習慣の定着を図っている。

テスト2週間前に、テスト範囲と提出物の一覧を配布し、生徒の計画的な学習を支援するとともに、豊川中学校メールマガジンで配信し、保護者の方のご協力もお願いしている。また、学年の状況に応じて、提出物確認表やテスト計画・実行状況表などを作成、学習プリントの配布などを行っている。

③ 授業における支援体制の確立

国語・数学・英語を中心として、習熟度別授業、少人数授業、チームティーチング・学習サポーターの活用など丁寧に生徒の様子を確認し、支援できる体制づくりを行っている。

④ テスト・アンケートの分析

第1・2学年の年度初めに、国語・数学の確認テストを実施し、生徒の学習状況を確認している。また、各授業者が1・2学期末において、授業アンケートを行い、生徒の思いをもとに、自身の授業を分析し、授業づくりの方針を検討している。また、全国学力・学習状況調査において、特に課題の見られた設問について、全教職員で原因や手立てを協議している。